

## 第三場面 八組のまとめ

「僕」は、家族に反対されていたので、ちようを段ボールにしまっていた。他の子とは比べものにならないから、自分の妹たちだけに見せていた。ある日、僕らのところでは珍しいコムラサキが捕れた。だから、隣の子供には見せようと思い、見せたら、良いことは少ししか言ってもらえず、悪いことばかり言われた。

「僕」はあまりに言われて心が折れるほど傷つけられた。

奥村麻梨子

「僕」は、友達にちよう見せると箱のことでバカにされるから、箱ではなくちようだけを見てくれそうな隣の子供に、見返したい気持ちもあつてコムラサキを見せた。最初は「珍しい」と言ってくれたけれど、難癖をつけられた上、足が二本欠けているなどの最も大きな欠陥を発見された。彼は、こつぴどい批評家のため、獲物に対する喜びはかなり傷つけられた。

速水将仁

「僕」は、ちように関して珍しい技術のある隣の子供を見返したくて、珍しい蝶「コムラサキ」を見せた。すると彼は「珍しい」と認めて、「僕」は少しうれしかったが、足が二本欠けているなどなんくせをつけ始め、不備があり、全体にも影響がある欠陥を発見した。そして、さつきまでの喜びはなくなり、「僕」は深く傷つけられた。

村瀬紗弥

「僕」は、コムラサキを捕まえたとき、せめて隣の子供に見せて、見返してやろうと試みたが、彼は珍しいとは言ったものの、難癖をつけ初め、その上、足が二本欠けているという欠陥を見つけた。それで、ちよう集めに対する喜びは、かなり傷つけられた。

田中裕瑛

「僕」はある日、ここらでは珍しいコムラサキを捕まえた。そこで、模範少年だった隣の子供を見返そうと、ちようを見せることにした。彼は、「珍しい」とちようのことは認めたが、展翅のしかたが悪いとか、なんくせをつけてきた。足が二本欠けているという、彼にとつては大きな欠陥を見つけて、「僕」のことは認めてくれなかった。「僕」の喜びは、彼と違い、「僕」は彼にちようを見せたことを後悔し、「僕」の心はかなり傷ついた。

赤座りな

「僕」は、両親にちよう集めをすることを反対されていたため、良い道具を買ってもらえなくて、みんなから仲間はずれにされたりして、身内にしかちようを見せなくなってしまう。ある日、とても珍しいコムラサキを発見した「僕」は、隣の子供には見せようと思った。理由は、この少年がとてもちように詳しくて、コムラサキを見せて見返してやりたいと思ったからだ。だが、最初はこの少年もほめてくれたが、次第に難癖をつけはじめ、ちように対する喜びを傷つけられたので、もう二度とちようを見せたくないと思った。

白木淳奈

「僕」は、ここらでは珍しいコムラサキを捕らえた。それを隣の子供に見せ、見返してやるというシナリオでいたのだが、彼はそこから難癖をつけ始め、とどめの一撃に足が二本欠けているという、もつともな欠陥を見つけた。その言葉が心に響き、自分の獲物に対する喜びはかなり傷つけられた。

奥村直也

「僕」は、捕まえた珍しいコムラサキで隣の子供を見返そうと、ちようを見せた。しかし、その結果はひどく、いろんな難癖をつけ、「僕」が気にしなかった欠陥まで発見した。それを聞いた「僕」は、自分で捕まえたちように対する思いをかなり傷つけられた。それからは、あの批評で、自分の喜びを傷つけたくないためなのか、彼には二度とちようを見せようとはしなかった。

足立彩音

「僕」はたいした道具もない中で、このあたりでは珍しいコムラサキを手に入れた。それまでは、身内しか見せなかったちようだったが、このときばかりはと、高度な技術を持つ隣の子供を見返してやろうとコムラサキを見せに行つた。その少年は、珍しいとは言ってくれたが、その後、難癖をつけだし、展翅が悪いなどと言い出すと、ついには足が二本欠けているという欠陥を発見した。これらはすべて、欠点だと思っていなかった「僕」の、コムラサキをとつた喜びは大きく傷ついた。

梅田旬太郎